

## トップコミットメント

# CSRは今、意識から実践へ。

全社員が参加し、意思と理解を持ってCSRを実践し、あらゆるステークホルダーに貢献していきます。

### — まず、CSRについての基本的な考えをお聞かせください —

多くの方が新聞やテレビなどの報道を通じて、また生活の中で実感されているとおり、日本の石油業界を取り巻く環境は近年、大きく変化しており、事業運営も厳しさを増しています。急激な原油価格の高騰は、今や石油業界だけでなく産業界および国民生活全体に大きな影響を与えています。

将来に目を向けても、国際的な石油需要は新興国を中心に増え続け、世界的な人口増加の見通しもあり、原油価格は今後も高値で推移すると予測されます。一方、国内は、人口の減少や自動車の燃費向上、低炭素社会への動きなどを背景に、石油製品の需要は減少傾向にあります。

このような環境の中、私たちコスモ石油グループは石油の安定供給という社会的使命をさらに強く意識し、今後とも原油の安定した調達や、製油所における安全対策や環境効率を高めるための設備投資などに力を注いでいかなければなりません。そして同時に、持続可能な社会の実現のために、コンプライアンスの徹底や地球環境問題への対応など、企業の社会的責任についても活動をより一層進化させていきたいと考えています。

### — 新中期経営計画における「CSR経営の推進」の位置づけをどのようにお考えですか？ —

コスモ石油グループでは従来から、地球環境と調和しつつ持続可能な成長を実現するために、「収益基盤の強化」と「CSR経営の推進」を経営の両輪に位置付けてきました。そしてCSR経営のゴールビジョンとして「社会全体の調和と共生および持続的発展に寄与する」「あらゆるステークホルダーから信頼され選ばれる



企業グループとなる」という2つの目標を置き、「コンプライアンス・人・環境」の3つをCSR経営の柱としています。

現在の「第3次連結中期経営計画」は2008年度からスタートしたもので、「収益基盤の再構築」と「次の成長への布石」に加え「CSR経営の推進」を基本方針に掲げ、その具体化のため、3年ごとに「連結中期CSR計画」を策定しています。

### — CSR経営の進捗についてはどのような手応えを感じていますか？ —

さかのぼれば、コスモ石油グループにおけるCSR経営への取り組みは2004年から本格化し、これまでは社員のCSR意識の浸透に重点を置いてきました。まだまだ十分とは言えませんが、意識の浸透はある程度進んだことも確かで、これを具体的に実践する段階に入ってきたと感じています。

推進体制としては、2008年1月、社長直轄の委員会として、CSRおよび内部統制に関する活動を統括する「CSR推進委員会」を設置しました。これにより、それまで社内のさまざまな部門で個別に進めていたCSR活動を、一元化して実行できるようになりました。

### — CSRの一環として「“ココロも満タンに”宣言」という活動も展開しています —

コスモ石油グループでは以前より、メッセージスローガンとして「ココロも満タンに」を掲げてきました。それをお客様に実感していただくこと、販売部門主導で2007年度からスタート

したのが「ココロも満タンに」宣言」という活動ですが、私が大切だと感じていることが2つあります。

ひとつは、全社員の参加です。販売部門だけでなく、製造部門、物流部門、関係会社など、コスモ石油グループの全社員が参加しなければ、本当にお客様から信頼や満足をいただくことはできません。

もうひとつは、参加する社員の満足・充実です。一人ひとりに高い満足感があってこそ自主性と積極性を備えた活動となり、あらゆるステークホルダーの「ココロも満タンに」を実現できると考えています。

#### — 石油の安定供給という使命については いかがお考えですか？ —

私たちの使命であり、事業の大前提となる石油の安定供給を果たすためには、産油国との良好な関係が欠かせませんが、コスモ石油グループはこれまで40年に渡りUAE（アラブ首長国連邦）、特にアブダビ首長国と強い信頼関係を築いてきました。経済のみならず、文化、教育、環境などさまざまな面で交流を深め、パートナーシップを強固にしたことが、現在も続く同国からの安定的な原油調達につながっています。

さらに2007年には、そのアブダビ首長国の政府系投資会社IPIC（International Petroleum Investment Company）との戦略提携により、コスモ石油グループとアブダビ首長国との結びつきは一層強固なものとなりました。

#### — CSR活動の成果として、 特に環境分野にはどのようなものがありますか？ —

石油の消費は環境に大きな負荷を与える。その現実には私たちは早くから自覚を持ち、地球環境との共存に向けたさまざまな取り組みを続けてきました。

最も重要なのは、日々の事業活動における環境負荷の低減ですが、一方で、これまでに培った技術力を活かすことでも社会への貢献に努めてきました。そうした取り組みの中からは、大きな期待が持てる成果も生まれています。例えば、コスモ石油グループが大量生産に成功したALA（5-アミノレブリン酸）は、植物の光合成を促進する性質を備えており、生産性の向上など、ひいては食糧の増産に寄与します。すでに肥料という形で製品化し、世界各国で高い評価をいただいています。



2007年8月、山梨県のゆずりはら青少年自然の里で、コスモわくわく探検隊に参加。

#### — 社会／環境貢献活動についても、 さまざまな取り組みを行っているようですが —

社会／環境貢献活動の一例としては、「ずっと地球で暮らそう。」というプロジェクトを2002年から続けています。これはコスモ・ザ・カード「エコ」会員の方たちの寄付金などをもとにしたコスモ石油エコカード基金を通じて行っているもので、NPO、NGO、研究機関、地域社会、政府の方々など各方面の協力を得て、途上国の持続的発展を支援するプロジェクトや次の世代を担う子どもたちへの環境教育などを実施しています。

また、2006年からは国連が提唱する「グローバル・コンパクト」にも参加し、その趣旨に則ったCSR経営の推進にも取り組んでいます。

#### — 最後に、コスモ石油グループに関係するステーク ホルダーの方々へのメッセージをお願いします —

CSRは、一握りの社員だけが関心を持てば良いといったものではありません。コスモ石油グループの全社員がCSRの意識に基づいた行動をとることで、企業が社会から信頼され、それがまた社員一人ひとりの満足感や誇りにつながるという好循環を生み出すことが大切です。「第2次連結中期CSR計画」では、重点項目のひとつに「人権／人事施策の充実」をあげていますが、これもそうした理由によるものです。

コスモ石油グループでは今後も、すべての社員の意識を高め、その満足を図り、全社一丸となってCSRの推進に取り組んでまいります。

コスモ石油株式会社 代表取締役社長

木村 裕一